

# 「いのちの森水輪」を卒業するにあたって



〒

発行：いのちの森「水輪」  
長野市飯綱高原2471-2198  
TEL 026-239-2630  
URL <http://www.suirin.com>

X年の瀬も迫った十二月三十日、私は二年半の実習を終えて、「いのちの森水輪」を卒業し、実社会での自立に向けて旅立つことになりました。まさか自分が、長野県の山の中で、二年半も過ごすことになるなんて、かつての私には想像することも出来ませんでした。結果としてそれは、私の人生において、掛け替えのない大切な時間となりました。様々な紆余曲折を経て、今私は、ここに来ることができて本当に良かったと、心から言うことができます。ここに、私の二年半を振り返らせていただきます。

来ませんでした。結局1社も受けることもないまま、大学を卒業することになりました。今から考えると、幼い頃に父親を亡くしたことが一つの原因のような気がします。家庭の中に、社会の中心で働く存在がいなかったことで、働くことが私にとって、遠い未知の領域になってしまいました。そして、頑張っていたところで、死ぬ時はあっさり死ぬのだといった虚しさが、心に広がっていたのだと思います。

初めて来た日のことは、今でもよく覚えています。「水輪」の塩澤みどり先生は初めて会う私にこう言いました。「あなたはここで絶対に良くなる」「あなたはここに来ることが出来る」「あなたにラッキー」。そのとき私は、その言葉を全く信じていることが出来ませんでした。冗談は止めてくれと言いたい気分でした。でも結局、それはどちらも本当のことでした。

初めて来た当初の私は、精神的にも身体的にも最悪の状態でした。心は暗く虚ろで、体力はなく、何をやるにも途轍もない疲労感を感じたことを覚えています。周りの人と打ち解けることもなく、ただ機械のように、体だけを動かしているような状態でした。ファームに配属されたのですが、長年昼夜逆転の生活を続けていたせいで、真夏の強烈な日差しに、腕が火傷のような状態になったこともありました。数ヶ月はそのようなつらい日々が続きましたが、つらくても続けているうちに、少しずつ、心も体も回復していききました。それは早寝早起き、一日三食の規則正しい生活、自然農園での力仕事、仲間との共同生活、それらの幾つかの要素が合わさって、良い状態へと向かわせてくれたのだと思います。

体力もつき、畑仕事にも慣れてくると、実習も楽しめるようになり、好循環が生まれてきます。責任の大きな役割も任せてもらえるようになり、やりがいも大きくなっていきます。仕事というものにもポジティブなイメージが持てるようになってきます。「生き方と働き方学校」では年齢も性別もキャリアも関係ありません。やる気と誠実ささえあれば、誰にでも重要な役割が与えられます。私は来て二ヶ月経った頃に、野菜の在庫管理を担当させてもらえるようになり、四ヶ月経った頃には、野菜の全国発送や業者出荷のリーダーをやらせてもらえることになりました。この役割は卒業するまで続けさせてもらい、一年以上誰にも譲らなかつたことは、私の小さな誇りでもあります。

ながら実習に取り組むことで、思考力も高まります。自宅で好き勝手な生活をしてきた頃は、時間というものをほとんど意識していなかったために、思考も行動も相当鈍っていました。世の中は全て“時間”で動いており、仕事をしていく上での最も基礎的で重要な、時間感覚というものを、この二年半の間に学ばせていただいたと思っています。

そして、一つの目標に向かって皆で力を合わせるこの大切さも学ばせていただきました。自分だけがいくら頑張っても、得られる結果には限界があります。途方もないと思えるような仕事も、全員力を結集させれば、驚くような早さで終わってしまう、そんな経験を何度もしました。そしてそれは何にも代えがたい達成感と充実感を与えてくれるものでした。

私は野菜の出荷のリーダーをやらせていただいたいましたが、何度かお客様からクレームを受けてしまったことがありました。そのほとんどは私自身が直接ミスしたものではありませんが、その度に仕事は一人でやるものではないと痛感させられました。他のメンバーが、正確に仕事ができるような指導をしているか、メンバーのミスをいかにカバーできるか、リーダーとして、自分の仕事以上に周りに気を配ることが出来ないと、良い結果は得られないということ、体験として学ばせていただきました。

きました。

そして、水輪での自習、生活を通して、私にとって何よりも大きな気付きとなったことが、他者と関わることの大切さ、喜びということ。二十四時間寝食を共にするということは、常に他者と向き合うということ。自分のやったことで誰かが喜んでくれる、それは無条件に嬉しいことです。心に暗い影が差し込んで、誰かが話しかけてくれると、気が楽になります。つらいことがあっても、離れて暮らす家族のことを思うと、力が湧いてきます。人は一人では生きられない。それを心の底から感じる事が出来たことは、私の水輪での生活において、最も大きな意味のある学びであったと感じています。

最後に、この「生き方と働き方学校」で勉強させていただいた、京セラ創業者である稲盛和夫さんの教えに触れさせていただきたいと思えます。ここでは稲盛さんの著書である、「京セラフィロソフィ」、「生き方」、「働き方」の三冊を教材として使わせていただいています。

稲盛さんは、人間が生きる目的とは、魂を磨くこと、即ち、この世を去るときに、生まれたときよりも崇高な魂を持って旅立っていくことにあると説かれています。そして、魂を磨くために最も重要なことが、真面目に一生懸命、日々の仕事に打ち込むことだと仰っています。正しい考え

方を持って、「ど」がつくほど真剣に一日一日を生きる。それを続けていくことが、心を高め、幸福な人生を歩むための唯一の方法なのです。稲盛さんの言葉には、この先の人生を生きていく上で、縁となる、大切な教えが沢山詰まっています。稲盛さんの考え方に触れさせていただいたこと、「いのちの森水輪」で、その実践の機会を与えていただいたことは、私にとって何よりの財産になったと思っています。

そしてそれは、思いがけず、記憶の中の父親との邂逅でもありました。毎日夜遅くまで働き、帰宅すると、寝ている私の様子を部屋まで見に来てくれた父。あちこちに出張に出かけ、たまの休みには色々なところへ家族を連れて行ってくれた父。ここで、生き方と働き方について学んでいるうちに、今までほとんど思い出すこともなかった、そんな幼い日の父親の記憶が蘇ってきました。父は、長いとは言えないその人生で、自らの魂を高め続け、旅立って行ったのではない。全身全霊で、働くこと、生きることを意味を私に教えてくれたのではない。そして今も、遠くから、静かに、私を光ある方へと、導こうとしてくれていたのではない。そう思えたとき、私の心の中にある虚しさは消え、今後の人生に対する希望が、少しづつ、しかし確実に、湧き上がってきました。そしてこれからは、自分自身が魂を磨き、

働くこと、生きることに、心底向き合うことなのだと思います。そのような気付きを得られたことが、私に水輪に来たことの、本当の意味だったのではないかと感じています。

最後になりましたが、この二年半お世話になった方々へ、この場を借りて、感謝の気持ちを伝えさせていただきますと思います。

「いのちの森クリニック」院長の巽先生は、会うたびに優しく声をかけて下さいました。常に皆のことを気にかけ、親身になって話を聞いて下さいました。

「いのちの森水輪」の塩澤研一先生は、ときに優しく、ときに厳しく私を指導して下さいました。研先生のその優しさと強さは、どこに行っても私の憧れです。外食に連れていっていただいたときに、「内緒な」と言っていて、ほんの少しだけお酒を勧めてくれたこと、本当に嬉しかったです。不器用な私には、その気持ちをうまく表すことはできませんでしたが、幼い頃、美味しそうにお酒を飲む父を見て、いつか一緒に飲みたいと思って、いた私にとっては、本当に嬉しい時間だったのです。

「いのちの森水輪」の塩澤みどり先生は、最後まで私を導き続けて下さいました。私が正しくないことをしたときには、真剣に叱って下さり、私が落ち込んでいるときには、あの手この手を使って、私を元気づけて下さいました。みどり先生が最後に私

にくれた「あなたは今旅の途中なのね」という言葉、ずっと胸に残っています。まだまだ未熟な私の行く末を案じながらも、最後は私の意志を尊重して、送り出してくれたみどり先生に、精一杯の感謝を送りたいと思います。みどり先生が、初めて会ったときにかけて下さった言葉は、本当のことでした。私はここで、一つ壁を乗り越えることができ、ここに来ることが出来た本当に良かったと、心の底から言うことが出来ます。そして二年半共に学んできた仲間たちに、皆課題を抱えてはいるけれど、純粋で美しい魂を持った仲間たちに、この場を借りて、本当にありがとうございます。これからもお互い自分の魂を磨き続けようと、言わせていただきたいと思えます。これからもそれぞれに、幾多の困難が訪れるでしょうが、仲間がいればきっと乗り越えられるはず。私も遠く離れていても、皆が頑張っていることを励みに、また胸を張って再会出来るよう、心の旅を続けたいと思います。

そしてもちろん、いつも遠くで見守ってくれていた家族に。  
本当にありがとうございます。  
いのちの森「生き方と働き方学校」  
平成二十六年十二月三十日卒業